

平成26年度

# 決算報告書

第11期事業年度

自 平成26年4月 1日  
至 平成27年3月31日



国立大学法人 筑波大学

平成26事業年度 決算報告書

国立大学法人筑波大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算－予算)	備 考
収 入				
運営費交付金	43,287	43,897	611	(注1)
施設整備費補助金	8,340	8,346	6	(注2)
船舶建造費補助金	0	0	0	
補助金等収入	3,859	4,156	297	(注3)
国立大学財務・経営センター施設費交付金	175	175	0	
自己収入	36,838	38,122	1,284	
授業料、入学料及び検定料収入	9,195	9,173	△ 22	(注4)
附属病院収入	26,318	27,568	1,250	(注5)
財産処分収入	17	10	△ 6	
雑収入	1,308	1,371	63	(注6)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	8,491	11,060	2,570	(注7)
引当金取崩	449	470	21	(注8)
長期借入金収入	0	0	0	
貸付回収金	0	0	0	
目的積立金取崩	123	123	△ 0	
計	101,562	106,350	4,788	
支 出				
業務費	73,806	74,206	400	(注9)
教育研究経費	48,988	48,171	△ 816	
診療経費	24,818	26,035	1,217	
施設整備費	10,412	10,418	6	(注10)
船舶建造費	0	0	0	
補助金等	3,859	4,156	297	(注11)
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	8,491	9,821	1,330	(注12)
貸付金	0	0	0	
長期借入金償還金	4,986	4,986	△ 0	
国立大学財務・経営センター施設費納付金	8	5	△ 3	
計	101,562	103,592	2,030	
収入－支出	0	2,758	2,758	

- (注1) 運営費交付金については、追加配分による増加などの要因により、予算額に比して決算額が611百万円多額となっています。
- (注2) 施設整備費補助金については、大雪による災害復旧事業（坂戸高等学校）の要因により、予算額に比して決算額が6百万円多額となっています。
- (注3) 補助金等収入については、予算段階では予定していなかった国からの補助金等の獲得に努めたため、予算額に比して決算額が297百万円多額となっています。
- (注4) 授業料、入学料及び検定料収入については、授業料免除額の拡充により、予算額に比して決算額が22百万円少額となっています。
- (注5) 附属病院収入については、手術件数の増加及び病床の効率的運用（病床稼働率の上昇・在院日数の短縮）などの要因により、予算額に比して決算額が1,250百万円多額となっています。
- (注6) 雑収入については、不用物品等売払収入及び消費税還付金収入などの増加により、予算額に比して決算額が63百万円多額となっています。
- (注7) 産学連携等研究収入及び寄附金収入等については、積極的に資金の獲得に努めたことなどにより、予算額に比して決算額が2,570百万円多額となっています。
- (注8) 引当金取崩については、退職者が増加したため、予算額に比して決算額が21百万円多額となっています。
- (注9) 業務費については、翌年度に継続して行う事業を繰越したことにより教育研究経費の決算額が減少した一方、診療実績の増加に伴い診療経費が増加したこと等により、予算額に比して決算額が400百万円多額となっています。
- (注10) 施設整備費については、(注2)に示した理由を主な要因として、予算額に比して決算額が6百万円多額となっています。
- (注11) 補助金等については、(注3)に示した理由を主な要因として、予算額に比して決算額が297百万円多額となっています。
- (注12) 産学連携等研究経費及び寄附金事業費等については、(注7)に示した理由を主な要因として、予算額に比して決算額が1,330百万円多額となっています。